

## 環境意識の回心：より深く、さらに遠く、勇敢に創造的に対応

教皇フランシスコの回勅、ラウダート・シの第6章、第3節は、環境意識の回心を私たちに呼びかけています。この発表は私たちがいかにして環境意識の回心に携わるべきかを探究し、そしていかにして私たちが他の人がこの課題を探究する手伝いができるかの補助にもなります。私がこのトピックの準備を始めるに当たり、私自身が環境意識の回心のプロセスを始めたものの、実は自分にはあまり経験のないことであることに気が付きました。どこから手をつけたらいいか悩みながら考えているところ、自分は子供の情緒的発達に関してはよく知っていることに気が付きました。そのことを考えていくと、子供の発達と自分自身の環境意識の回心のプロセスは相似しているところがあり、その観点から、今回の環境意識の回心の資料の内容と丁度よくかみ合うことが見えてきました。

環境意識の回心は発達性があり、かつ変換性があります。それは一步一步進歩を確認しながら徐々に発達・変換していく場合もあれば、突発的に飛躍して変換する場合もあり、いずれも私たちの世界に対する見方を変え、世界の中での自分たちの行動もが根本的に変わります。多くの場合は、両方の変換の場合のコンビネーションからなります。

環境意識の回心というのは内面的・個人的なものではあるが、一人一人の発達していく環境意識の回心の現れは外から目に見えるものであり、多くの場合は周りの人をも引き込み、共同的な環境意識の回心につながることもある。こうなると、グループとして共有できる豊かさ、お互いの助け合いなどを経験することができるので、それはとても美しく素晴らしいことです。

一緒に祈りましょう。

### 開会の祈り—ガイドされた黙想 (読む人はゆっくり、間を入れながら読みます)

自然の中で、あなたにとって特別な場所を思い浮かべてください。

ラウダート・シでは教皇フランシスコは、子供の頃にいた場所や、自分にとってとても特別な場所を思い浮かべるのがいいと仰っていました。教皇フランシスコは「物質世界全てが神の限りなき愛情を示してくれています。土、水、山、全ては今も昔も神の抱擁である。私たちの神との友情の歴史はいつもそれぞれの特別な場所で結びつけられています。その場所にさかのぼってみると信の自分を取り戻す機会になります。」

では、祈りましょう。

どのような形や姿勢で祈っていただいても結構です。目を閉じてもいいですし、何にも焦点を合わせず下の方をじっと見つめる方法でも構いません。祈りのプロセスに入るに従い、深く息を吸いながらシスターの空気を吸い込み、息を吐きながら気持ちを落ち着かせ、体と体の中にある自分のクリエーションをつなげるように深呼吸してください。

自分の体の存在を意識してください。自分の呼吸を私たちみんなが分かち合う神の呼吸と合わせてください。ここで自分の思いを、自分にとってとても特別な場所へと持って行ってください。子供の頃の思い出の場所でもいいですし、旅行に行った先でも構いません。或いは、行っ

たことはないけど写真で見た場所でもいいです。自分にとって特別な意味のある場所を心の中に思い浮かべてください。あたかも今自分がそこにいるかのように、できるだけ鮮明にその場所を心の中で蘇らせてください。そして見回しながら、色や形を思い出してください。そしてそこにある音や匂い、歩き回って手で何かに触れることができるかやってみてください。木なり砂なり、完全に自分の身をそこに置いて、そこにいることによってどんな気持ちになるかを感じ取ってみてください。

ラウダート・シは、被造物は私たちに愛の言葉をかけてくれていることを教えてくれています。ですから、今あなたはその特別な場所に立ち、被造物を通して神の愛の言葉が聞こえるか、何が聞こえるか、じっと耳を傾けてください。中には言葉にならないメッセージもあるかもしれません。すべてを受け入れ、力を抜いて、信頼してください。＜読者はここで待つ＞

この黙想を終了するに当たり、被造物と特別な時間を過ごせたことに対し、静かに感謝の祈りを捧げてください。アーメン。

## 添付資料：地球の保護

ほとんどの人は皆、自然の中で自分にとってとても大切な場所を思い出すか、心の中で行くことができたのではないかと思います。この時に経験した自然の中の平和、深くつろぎ、或いは自己超絶の感覚はしっかりと心に刻まれ、永続的に再現できる感情的な反応を促したことでしょう。環境意識の回心はその地球とのコネクション、或いは地球との調和を感じさせる感情的な反応から始まるのです。教皇フランシスコはそれを「みんなの共通の家」と呼んでいます。その場所は私たちにとって安全で、大事に育ててくれる、落ち着いて休めるところだということ私たちは知っています。

多くの人にとっては、この自然に対する感謝と価値観はごく自然なものです。しかし、皆が皆必ずしもそう感じているわけではありません。中には、自然環境の中に入り込み、自然の中の虫や雑草や丘などに慣れ親しむ努力をする必要のある人もいます。そういう人にとっては、返って自分のもっと身近な自然、例えば太陽の温もりを感じたり、星や雲を眺めたり、お花を見つめたりしても構いません。私たちの体は宇宙塵から作られているので、世界の様々なものと同じ DNA を共有しています。なので、私たちが自然と関わろうとする場所には色々なオプションがあります。

環境意識の回心をするにおいて、一つできることは自然の中で過ごすことです。或いは、先ほど開会の祈りの中で体験したように自分にとってとても大切な場所に対する愛をじっくりと味わえる、更に自分の心を深く落ち着かせることのできる場所でも構いません。この愛情を味わう時間を設けることが大切であり、それが環境意識の回心を促す後押しにもなります。

子供が母親や保護者と一緒にいる時に感じられる安心感と同じように、私たちも地球とのコネクション、地球に対する愛着や愛情を感じる必要があります、その愛情が私たちに地球を守るための様々な困難かつ正しい選択を積極的にすることを可能にしてくれます。私たちの環境意識の回心は地球への愛情と地球上の生き物すべてに対する愛情深い関係から始まります。

生まれて最初の 18 か月間、情緒的に健康に発達することができれば、初めて経験するポジティブな感情は喜び、驚きと信頼感です。幼い子供は歩いたり、じゃべったり、おもちゃで遊んだ

りすると喜びを感じます。このような喜びは私たちが自然の中に入ったときにたびたび経験できる感情です。私は、何時間もかけて山を登って初めて大陸分水嶺が見えた時に感じた深い喜びは今でも忘れられません。そして、また別な機会にアラパホー・マウンテンのふもとを踊るようにして霧が舞っている様子を目の当たりにして感動したのもよく覚えています。このような素晴らしい景色を見るために険しい山道を安全にしっかりと歩くために、自分の能力と実力を信頼する大切さも学びました。私たちの地球との関係を思い出すためには、このような感情を思い起こし利用することも大切です。

私たちの多くは自分が自然と触れ合った素晴らしい経験を他の人に伝えたことと思います。人に伝えることによって、その人たち自身の地球との関係を思い起こさせるお手伝いができます。そして自分の自然との関わりを周りに伝えることにより、あらゆるグループをも影響しより多くの人々が環境意識の回心の方向に進む力添えにもなります。実際には、地球の環境問題に関わっている理由が「共通の家」を愛し守りたいからだということそれぞれのグループが思い出すことができれば、その活動力はさらに強化されます。

当然、幼い子供にとっては生まれて最初の数年間、ニーズが満たされなければ子供は苦しみます。子供は愛情と信頼がベースになればならないのに、児童虐待、栄養失調、病弱、搾取などの経験は子供の他との人間関係をダメにしてしまいます。それと同じように、私たちは地球が破壊していくのを見ると心が痛み、悲しみ、時には怒りをも感じます。これらの感情は私たちと地球との間の深い繋がりを示しています。それはとても重要な繋がりであり、断絶されようとしているこの繋がりを何としてでも修復する必要があります。

## 自分の独自性（アイデンティ）を形成するためには冒険が必要

子供は成長するに従いどんどん親離れをし始め、リスクを取り、怖い思いをし、迷子になり、けがもします。自分自身が誰なのかを探ろうとしています。親から離れて行っていることはわかっているが、その先どうしたらいいかがまだ分かっていない。色々な方法を試す中、多くの場合はとてもユニークで、かつ効率的な方法を取ることが多い。

私たちは地球と地球上の生き物たちとの関係を愛情で確立し落ち着いていながらも、根本的な環境意識の回心の努力を始めるに置いて、子供が親から離れて冒険するような、或いは思うようにいかないときには痛癢を起したりと、最初はぎこちない感じがすることもあるかもしれません。私たちは何を言いたいかは心ではわかっている、必ずしも説得力のある、或いは社会的に受け入れられるような表現ができないことがあります。

私たちは仲間や社会の世間一般の通年と違った行動をとりたいと思うが、批判されたり目立ちすぎたりするのが怖くて縮こまってしまい、結局周りに合わせてしまいがちです。自分は能力や知識が足りないと思い、他の人を説得させる自信ないと思うかもしれません。でもこれは成長するに過程においてごく自然なパターンであることを認識する必要があります。居心地の悪い方向に押し進んでいくということは環境意識の回心に向かうプロセスの一つなのです。このチャレンジ精神は今あなたの中で芽生えているのです。なぜ難しく感じるのか、或いは激しく感情的になるのかをじっくりと見つめてみるのもいいかもしれません。あなたが今の地球の状況に対して深い憤りを感じているのであれば、その気持ちはよくわかります。その怒りを押し殺して結局周りに合わせてしまったり、その怒りを何の約にも立たない方法で周りにぶつけた

りするよりも、その怒りを合理的に次のステップに繋げる方法を考えることが環境意識の回心への大切なステップです。このプロセスにおいてあなたはたくさん間違いを犯すことでしょう。間違ったとき時は、自分を許すのが大切です。そして、その間違いから学び、改めて挑戦してみましょう。

グループで環境意識の回心のプロセスに携わることになるのは、多くの場合、誰かが誘ってくれたり、何かに刺激されたからです。この場合に犯しやすい間違いは、自分自身の能力を試さずただグループの流れに合わせてしまうことです。なので自分を居心地の悪い方向に向かっていくことがこの回心への進歩にとってとても大切なことです。

先日、私が一緒に暮らしているシスター達数名が私たちの州の上院議員のオフィスのスタッフとビデオ会議を行いました。丹念に考案されたプレゼンテーションを用意し、私がリードを取りつつ、一人ずつ表現しました。質問事項には上手に答えました。しかし、会議の最後のほうでこのような直接の通話はしたことがないが、何年間もこのオフィス宛てに手紙を書いて送ってきたシスターが一言いいたいと表現しました。彼女は「プラント上院議員はいつも私の書いた手紙に対してご自分で丁寧にきちんとしたお返事を書いてくださるのでいつも感謝しています。一度だって、返事代わりにただのプリントされた用紙が送られてきたことはありません。」と言ったのです。私たちはしっかりとプレゼンテーションを用意し、一生懸命表現しましたが、最終的にはこのシスターの言ってくれた一言が強く上院議員のスタッフの人たちの印象に残り、そのお陰で私たちに対する信頼も高まりました。リスクを取る価値が十分にあったという体験でした。

## 理解と共感

子供は善悪の観念が発達するかなりまえから、自分のそばに来たものとの共感を持つことができます。あなたの環境意識の回心のプロセスに於いて、自分そして自分の住んでいる社会が選んだ選択肢がどれだけ周りの人に、コミュニティーに、或いは世界に影響を及ぼしているかがどんどん自覚できるようになります。その気持ちに注意しているとより純粋な道徳に沿った回心へと導かれていくはずです。そして、たとえ自分自身の好みや要望をちょっと横に置くことになっても、他者に対する認識は他者の為、そして地球全体の為になる選択をする援助をしてくれます。

数年前、私が聖ヨセフ国際センターのシスターたちのために世界地図を作成していた時、シスター達と一緒にコートジボアールにある学校に通っている子供たちの写真を数枚その地図に取り入れました。同じころに誰かに「The Dark Side of the Chocolate」というドキュメンタリーを見るよう誰かが勧めてくれました。このドキュメンタリーに出てくるコートジボアールの子供たちは騙され、奴隷にさせられてチョコレートを収穫する仕事をさせられます。その子たちと、私たちのシスターたちと一緒に学校に通っている子供たちと比較すると、生活・環境があまりにも対照的なので本当にショックを受けました。それ以後私は公正取引によって仕入れられたチョコレート以外は食べないことに決めました。この決意をしてからは、どれだけやみ取り引きのチョコレートが出回っているのかを知り本当に驚きました。どこに行っても、誰かが親切に私にチョコレートを差し出してくれるのですが、断ってきました。次第に、自分がチョコレートを断る理由はチョコレート産業は人身売買に関わっているから、公正に取り引きされたチョコレートしか食べないことにしていることをきちんと勇気をもって説明する必要があると思

いました。このことを知っている私の友人達が私にチョコレートを差し出そうとすると、わたしはもっとオープンに「それは奴隷の労働が作ったチョコレートでしょ」と言って断ります。

奴隷制度は道徳的にも倫理的にも間違っているのは明らかですが、日本での使い捨てプラスチック包装のことを学ぼうとする中、環境問題の解決は思うほど簡単なものでないことをしみじみ感じました。日本では、衛生に対する意識が非常に高く、そのために色々なものが使い捨てのプラスチックで包装され、場合によっては何重にも包装されています。日本も環境問題を大変重要視していて、使い捨てのプラスチックという無駄をなくす必要があることは理解していますが、それと同時に衛生に対する強い意識もあるために葛藤が起きています。日本では、大部分の使い捨てプラスチックは燃やされ再生エネルギーとして使われてはいますが、このやり方は決して環境にはいいとは言えません。このように、二つの選択肢のどちらを優先するか、どちらがもっと重大な問題なのかについて検討している人たちに対し、私たちは共感を持ってあげる必要があると思います。この世の中には、一律に当てはめられる解決法などはありません。お互いの文化的な違いなどを理解合って初めて純粋に共感を持つことができるのです。日本で起こっているこの葛藤を理解してあげた上で、日本の若者たちがこの問題に対する解決法を探ろうとしているビデオを大変興味深く楽しく見させていただきました。

## 道義心の発達：地球のための倫理

子供がしっかりと親や保護者との絆が確立され、自主的に色々な判断をし、周りに対して純粋に共感が持てるようになって、初めてきちんと善悪の判断できる能力が発達し始めるのです。それは愛情により家族との絆がしっかりと確立されているので、子供は抽象的な考え方ができるようになり、そこから道義心が発達し始めるのです。そうなりますと、子供は親に叱られるからしてはいけないのではなく、そういう行動をとるどういう不具合が生じるかを見ることができ、感じ取ることができるようになります。

多くの大人は恐らく環境についての理知的な倫理をすぐに開発しようとするでしょう。彼らは使い捨てプラスチックがどれだけ地球に害を及ぼしているかについての最新の科学データも用意しています。そしてこの問題に対応するための最新の様々な科学技術の研究もしています。

教皇フランシスコはラウダート・シの中で「起こってくる各種の環境問題に対しテクニカル（技術的）な解決法のみを探し求めようとする、現実的に相互に関連していることから離れ、かつ最も深いグローバル・システムの問題を覆い隠すこととなります。」と述べています。更に「人類が方向性を失い、私たちが平和に暮らし、他人に良くしてあげるために自分を犠牲にすることを可能にする大きなモチベーションを見失ってしまったら、いかなる科学が提供するテクニカルな解決法があったとしてもそれは無力である。信者自身も常に自分の信仰心と調和のとれた生き方をする努力を続ける必要があり、それぞれの取る行動もそれに伴わなければなりません。神の恵みに心を開き、愛、正義、そして平和に対する深い信念を引き出すよう常に励ましてあげる必要があります。」

私たち自身の環境意識の回心がより深く進んでいくに従い、そしてこの地球上での私たちの生活方法が正しいか、間違っているかを判断していく中で、自身の信仰心と社会的常識の基本的価値観を基準に判断することができます。自身のモチベーションをこのように厳密に調査・考察すると確信を持った判断をすることができます。私たちの倫理のスタンスが何かと衝突し、いつか自分の生活、経済面、都合などに大きな影響を及ぼすようなことが起こった時のために、

覚悟と準備をしておく必要があります。困難なこともあると思いますが、これは私たちが回心していくのに大切なプロセスです。共に歩み励まし合える仲間がいるととても心強いと思います。

地球の環境の破壊、そして疎外され取り残された多くの人たちの現況の原因のほとんどは欲と目先の利益の追求のためです。ほんの少しの改善をするためにも多大な努力が必要です。しかし、環境保全の運動を起こしている人たち（アクティビスト）は、使い捨てプラスチックの問題を研究し、明らかな事実を提示し、企業にもリサイクルされていないものがいかに地球、生き物、人類に危害を加えているかというそれぞれの顧客の共感と怒りを聞き入れることを促すなどといった活動を続け、大きな変化をもたらしてきています。このような環境汚染は地球の持続にとっては危険であり、これを続けていくのは道徳上、倫理上間違ったことだと思う人がどんどん増えていっています。このアクティビスト達はメトリック（システム）を導入し、大きく環境を汚染している企業にやり方を変えるよう抗議をしてきました。彼らが作成した「Waste and Opportunity（無駄と好機）」というレポートでは、プラスチック包装を一番使っている世界中のトップ企業 50 社が発表されました。これはとても効果があり、そのために、Unilever, Nestle, Colgate-Palmolive, Johnson and Johnson などの大企業が今は現実的に改善プランを立てています。今まで通りのやり方では、顧客はどんどん商品を買わなくなり、利益に影響が出ることが分かったからです。

## 結論

ラウダート・シは私たちに環境意識の回心を呼び掛けています。自身のモチベーションと行動を愛し、感じ取り、時にはリスクを取り、よく凝視することを呼び掛けています。内面的に回心し地球に対する関わり方も変わっていきます。個人的な回心ではありますが、その回心は世界においては具体的な活動として現れます。

懸命に気候変動の問題に取り組んできた者にとっては、あまり関心を見せない人を見ると不思議に感じます。最近、運動のために朝の散歩するとき、いろんなプラスチックのごみが地面に散らかっているのが目につきます。どんな人が捨てたんだろうかと思います。以前はその人たちに対して憤りを感じましたが、今ではこれは自分自身の向上の為だという視点から見ることができます。このごみを捨てた人たちは地球に対する強いコネクションを感じないのかもしれませんが、無意識に身に着いた癖であり、だれにも正しいことを教えてもらえなかったのでしょう。その行動がどれだけ他の人を影響するのかに気がついていないのか、気に留めていないのかもしれませんが、或いは、自分達の都合だけを優先したいのかもしれませんが、ごみを散らかすことはいいことではないことは絶対にわかっているはずで、そんなことは皆幼い時から学校などで教わっていますので、ただ、その人たちにとっては大事なことではないのでしょうか。

こういうこともありますので、環境意識の回心をしていくに当たって一番大切なことは、同じ意識を持っている人たちと共に努力をすることだと思います。地球、そして地球上の生物全てに対する統合的な愛、自分が信じていることに恐れず立ち向かう勇氣、そして同じ意識を持っていない他者に対する共感と理解こそが、私たちのこの回心に向かうプロセスを持続させてくれることでしょう。よく熟考された倫理的な姿勢が環境意識を共有しない他者と接するのに必

ず役立つと思います。しかし、私たちの環境意識の回心への努力を一番持続させるものは、私たちの心です。

偉大なイエズス会の哲学者であり、神学者であるバーナード・ロナガンは「回心するということは本人だけでなく本人の世界をも変換するのです。あたかも開眼と共に、これまでの世界は消え去っていくようなものです。回心は実存的であり、非常に個人的なものであり、親密なものであります。しかし、孤独でなくてはならないことではありません。一度に多くの人が共に歩み共同体を結成し各自の変換をお互いに励まし合い持続させることもできるのです。」と書いています。